SOKA GLORIA
WIND ORCHESTRA
38th Annual Concert

創価グロリア吹奏楽団
第38回
定期演奏会

2025年4月29日 祝 火

文京シビックホール 大ホール

15:00開場／16:00開演

GLORIA
SOKA Gloria Wind Orchestra

ごあいさつ

Greeting & Profile

本日は、創価グロリア吹奏楽団 第38回定期演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。

私たち創価学会音楽隊は、聴いていただく人に勇気と希望を送ることを使命として活動しており、音楽をはじめとした文化活動は民衆と民衆をつなぎ、平和に結びつくと確信しております。

「戦争から平和へ」

殺伐とした世の中、紛争の絶えない世界にあって、誰もが平和を求めているはず――。演奏会の第２部では、平和への思いを込めて、戦争から平和への転換を表現する曲と演出をご用意いたしました。

また本公演には、津軽三味線奏者の匹田大智氏をゲストに迎えております。和と洋、吹奏楽と津軽三味線がどのように融合してメロディーを織りなすのか。お楽しみいただければ幸いです。

最後に、渾身の指導をしてくださる小澤俊朗先生、伊藤康英先生、講師の先生方、また本日ご来場いただいた皆さま、応援くださる皆さまに心より御礼と感謝を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

本日は最後まで、ごゆっくりとお楽しみください。

創価グロリア吹奏楽団

SOKA Gloria Wind Orchestra

創価学会音楽隊の中央楽団として、「音楽隊第一吹奏楽団」の名称で発足。1980年に「創価学会東京吹奏楽団」と改称。1997年に第45回全日本吹奏楽コンクール（主催：全日本吹奏楽連盟・朝日新聞社）に出場を果たし、金賞を受賞。同年11月に「創価グロリア吹奏楽団」に改称する。昨年2024年に至るまで、全日本吹奏楽コンクールにて通算17度の金賞を受賞している。

定期演奏会やファミリーコンサートの開催、イベントへの出演やレコーディングなど広範な活動を続けており、東日本大震災の被災地支援の活動として、2011年５月には千葉県旭市で「復興応援コンサート」、2013年４月には福島県南相馬市にて「福光の春コンサート」を開催。

2014年からは、さらなる継続的な活動として「希望の絆」コンサートを、岩手県、福島県、宮城県にて開催。2018年に熊本地震の復興支援活動として、熊本県で、2024年８月には能登半島地震の復興支援活動として、石川県金沢市で開催した。

楽団員は、首都圏に在住する青年メンバーで構成されている。

指揮 伊藤 康英 Yasuhide Ito

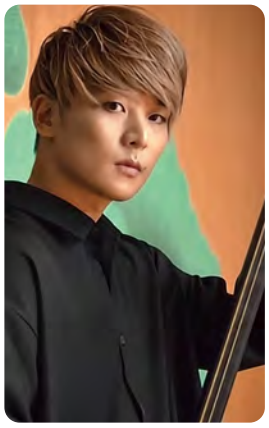
作曲家。交響詩《ぐるりよざ》は、吹奏楽のレパートリーとして世界的に知られ、ほかに主要作品としてオペラ《ミスター・シンデレラ》、オペラ《ある水筒の物語》(台本はいずれも高木達)など。ピアノ連弾曲集『ぐるぐるピアノ』シリーズ、『コンサートで映える日本の歌』などの「コンサートで映える」シリーズ、『童謡・唱歌の素敵なピアノ伴奏』『童謡・唱歌のもっとやさしいピアノ伴奏』(新刊)(いずれも音楽之友社)などの出版物や、《チョコレート・ダモーレ》、《木星のファンタジー》、《琉球幻想曲》、歌曲《あんこまパン》、《このみち》、《貝殻のうた》、《そこにあなたがいてくださることは》などが広く知られる。

一方、東京佼成ウインドオーケストラなど、多くの吹奏楽団を指揮。海外でも、台湾、タイ、シンガポール、香港、韓国、アメリカ、ドイツ、イタリア、スペインなどで指揮や講演などを行った。ピアニストとしても、特に声楽の伴奏者として多くの歌い手をサポート。高校の音楽教科書の執筆も行う。

東京藝術大学音楽学部作曲科、同大学院修了ののち同大学非常勤講師を長らく務め、現在、洗足学園音楽大学教授、常葉大学短期大学部音楽科客員教授、静岡大学客員教授(ピアノとウェルビーイング研究所)、桐朋学園大学、尚美ディプロマコース各非常勤講師。

日本音楽コンクール作曲部門入賞、クードヴァン国際吹奏楽作曲コンクール入賞、静岡県音楽コンクール・ピアノ部門優勝、奏楽堂日本歌曲コンクール優秀共演者賞。日本管打・吹奏楽学会アカデミー賞を二度受賞。浜松ゆかりの芸術家顕彰、浜松市やらまいか大使。《浜松市歌》、《伊達市歌》作曲者。イトーミュージックや音楽之友社はじめ国内外の出版社で作品が出版され、ウェブサイトwww.itomusic.comにて、作品の視聴ができる。

創価大学パイオニア吹奏楽団のミュージック・アドヴァイザーとして、2018年より同団を指揮し、その音楽表現の豊かさは高く評価されている。また、創価グロリア吹奏楽団からは2001年に委嘱を受けて、《吹奏楽のための序曲「平和と栄光」》を作曲した。



ゲスト出演 匹田 大智 Taichi Hikida

1991年大分県大分市出身。民謡三味線の師範である祖母・母の影響を受けて、9歳より津軽三味線を始める。2006年に津軽三味線福居流・福居慶大氏に師事。2012年、津軽三味線コンクール全国大会に初めて出場し、一般の部優勝という快挙を果たす。

オリジナル曲をはじめ、他ジャンルの楽器・パフォーマーとのコラボレーションやアイドル楽曲やアニメ、男子新体操、時代劇などの劇伴作品への参加など、国内外を問わず幅広い活動を行っている。従来の伝統的なスタイルはもちろん、エレキ三味線を使用し、ダンス・ロックなどを取り入れた新たな三味線ミュージック・パフォーマンスのスタイルを確立している。

ソロ活動のほか、エイベックス・エンタテインメントよりイケメン和楽器パフォーマンス集団「桜men」のメンバーとしての活動も行っている。

プログラム *Program*

指揮：伊藤 康英
Yasuhide Ito

第1部

マーチング・ソング・オブ・デモクラシー
（民主主義の行進歌）
Marching Song of Democracy

作曲：P.A.グレインジャー
Percy Aldridge Grainger

アーデンの森のロザリンド
Rosalind in The Forest of Arden

作曲：A.リード
Alfred Reed

津軽三味線協奏曲
Concerto for Tsugaru-Shamisen and Band

作曲：伊藤 康英
Yasuhide Ito

〈ゲスト〉津軽三味線：匹田 大智
Taichi Hikida

—休憩—

第2部

戦時に
In Wartime

作曲：D.デル・トレディチ
David Del Tredici

ピース、ピースと鳥たちは歌う
Peace, Peace, so Sing the Birds

作曲：伊藤 康英
Yasuhide Ito

― 第1部 ―

マーチング・ソング・オブ・デモクラシー（民主主義の行進歌）

《リンカンシャーの花束》や《デリー地方のアイルランド民謡》の作曲者として知られるパーシー・グレインジャー（1882-1961年）が、1917年に完成させた曲が《マーチング・ソング・オブ・デモクラシー（民主主義の行進歌）》です。この曲は当初、大人と子どもの合唱団が野外で歩きながら歌うことを想定して作られましたが、後に作曲者自身が楽器の必要性を感じ、楽譜にオーケストレーションを加えました。曲名の「民主主義の行進」とはどのような意味をもつのか。その背景を紐解くと、この曲がグレインジャーの2つのインスピレーションから生まれたことが分かります。

1つ目は、1900年のパリ万博でグレインジャーがジョージ・ワシントン像の前に立った際、「楽観的な人道主義や民主主義の進展を音楽で表現したい」と感じた瞬間です。

2つ目は、アメリカの詩人ウォルト・ホイットマンの代表作「草の葉」を読んで受けた感動です。この詩集は自由な詩形を特徴とし、自由、民主主義、愛、生命の神秘など、人間や自然の多様な側面をテーマにしています。グレインジャーはホイットマンの詩から得た感動を自身の類いまれなる音楽性によって昇華させ、革新的な技法を多く取り入れることで、この曲に民主主義への思いを込めました。

演奏の舞台に目を向けると、多彩な鍵盤打楽器やハープ、ピアノなどが配置され、それらの豊かな音色が効果的に響き合います。

私がこの曲を聴いて最初に感じたことは、メロディーがまるで「大きな流れ」のような一貫した力強さをもっていることです。ぜひご自身の心にある夢や想いを、本演奏会の開幕を飾る力強いメロディーに重ねながらお楽しみください。

最後に、「草の葉」から有名な一節をご紹介します。「さぁ、出発しよう！悪戦苦闘を突き抜けて！」

（佐久間 大毅）

アーデンの森のロザリンド

2025年は、作曲者アルフレッド・リード（1921-2005年）の没後20年となります。

《アーデンの森のロザリンド》は、シェイクスピアの喜劇「お気に召すまま」にインスピレーションを受けて作曲された吹奏楽曲です。物語は、宮廷で行われたレスリング大会にて勝利した若き貴族オーランドーと、その勇敢な姿に感銘を受けたロザリンドが、愛を確かめ合う様子が描かれています。

フレデリック公爵は、兄であるデューク・シニアを追放して公爵の地位を得ましたが、デュークの娘であるロザリンドは手元に残し、自身の娘であるシーリアと宮廷で育てました。しかし、フレデリック公爵はロザリンドの存在を疎ましく思うようになり、突然、追放を命じますが、シーリアは父の追放に対してロザリンドを見捨てず、共に宮廷を離れる決意をします。二人は身を守るために男装し、ロザリンドの父デューク・シニアが身を寄せるアーデンの森へと向かいます。

一方、オーランドーも名門の家柄に生まれながら、兄オリヴァーに財産と地位を奪われ、冷遇されていました。レスリングの試合でその勇敢さが称えられたことで、兄はオーランドーの成長と人気を脅威に感じ、殺害を企てます。オーランドーは身を隠すため、アーデンの森へと逃れ、厳しい環境の中で生き抜こうとするうちに、ロザリンドへの想いを抑えきれず、森の木々に彼女を讃える詩を書きつけます。

やがて、その詩を見つけたロザリンドは、男装した“ギャニミード”としてオーランドーと再会し、オーランドーの愛が真実であることを確か

めながら、自らの恋心を深めていく様子が、ロマンティックなメロディーとともに描かれています。劇中におけるアーデンの森は、「自己発見」の場所としての役割を担っています。

森の木々の温もりや神秘的な雰囲気を感じさせる木管楽器の柔らかな響き、転調による音色の変化や勇壮に響くトランペットやフルートの旋律。様々な情景に思いを馳せながらお楽しみください。

（大森 秀之）

津軽三味線協奏曲

かっこいい!! そんな魅力がストレートに伝わる曲です。

津軽三味線の打楽器のような激しさと、唯一無二の音色からくる力強いエネルギー。そのエネルギーが存分に伝わるように緻密に作られ、聴く人の心を大きく揺さぶるこの《津軽三味線協奏曲》。津軽三味線と吹奏楽という珍しい組み合わせに、どのような音楽が展開されるのか、気になる方が多いのではないでしょうか。

「津軽じょんから節」風の音楽から始まり、吹奏楽を主体とした部分。その後は「津軽三下がり」風の音楽。そして、変拍子を伴ったロック調の音楽という4つの部分から成り立った約14分の作品です。

また、この曲には「音合せ」と呼ばれる、いわゆるチューニングが音楽の一部として随所に現れます。通常、西洋音楽においてチューニングは演奏前に済ませるものですが、この曲では「音合せ」を効果的に用いて、場面の移り変わりや新たな展開を印象的に演出しています。一般的に弦楽器は指の抑え方や、カポタスト（全弦を押さえるための器具）を用いて様々な調性（キー）に対応しますが、三味線は、弦の張り具合そのものを変えることで様々な調性に対応しており、「一の糸」「二の糸」「三の糸」と呼ばれる三本の弦が、曲の中で順に「音合せ」されていきます。左手で三味線の棹（さお）の先端部分を握るときがその「音合せ」をしているときですので、ぜひ注目していただき、音が絶妙に変化する瞬間を感じてみてください。

（吉田 秀明）

― 第2部 ―

第2部では平和への思いを込めた演出と、2曲をアタッカ（曲と曲の間を空けずに）で演奏させていただきます。

戦時に

作曲者のデヴィッド・デル・トレディチ（1937-2023年）はアメリカの作曲家で、「アリスシリーズ」と呼ばれる不思議の国のアリスをコンセプトとした連作で、1980年にピューリッツァー賞を受賞しています。

この曲を作曲した当時（2002年）、アメリカではイラク侵攻への緊張感が高まっていました。テレビから流れ続けるニュースにデル・トレディチ自身は「テレビの音を大きくしながら、その間ずっと作曲を続けました。ニュースに引き寄せられ、テレビを消すことができないことに少し罪悪感を覚えながらも、作曲は私を正気で安定した状態に保ち、世界が混沌としている中でも穏やかな気持ちを保つ手段でした」と語っています。

どうか少しでもこの混乱が収まるように、平和に近づいていくようにと祈りながら作曲を続けたデル・トレディチでしたが、その願いも虚しく2003年3月16日、その後8年にも続くイラク戦争は開戦してしまいました。

この曲は2つの楽章から構成されています。

第一楽章「Hymn（讃美歌）」は、「Abide

with me（日暮れて四方暗く）」という讃美歌を引用し作曲されています。この讃美歌はもともとお葬式の際に歌われることの多い讃美歌で、キリストの弟子がキリストに向けて「どうか私と一緒にいてほしい」と懇願する聖書の一場面を基に作られており、この事から天に昇りゆく魂（死者の魂）に向けて今後も神の加護があるようにと弔い祈る曲となっています。

第二楽章「Battlemarch（戦いの行進曲）」は、その名前の通り、規則的なリズムと暗く重々しい旋律により戦いの幕開けを表現します。押しては引く波のようなハーモニーが、いつしか攻撃的な嵐のようになって、ペルシャ国歌（現在のイラン・イスラム共和国国歌）と対決するように混ざり合います。その中にワーグナー作曲、オペラ「トリスタンとイゾルデ」の愛のテーマが引用されます。争いの渦中でも、人々の愛は無くなることはありません。しかしながら破壊の魔の手は収まらず、最後は人々の苦痛の叫びのようなサイレンによって締め括られます。

平和な社会が戦争に向けて進んでいく様は、まさに今の世界情勢を感じさせます。このまま我々は「戦争の世紀」に突き進んでしまうのか。問いかけをもって、次の曲へ進みたいと思います。

（桜井 優）

ピース、ピースと鳥たちは歌う

「21世紀こそは平和な世紀でありますように」との思いを込め、2001年に伊藤康英先生によって当団の委嘱作品として作曲された《吹奏楽のための序曲「平和と栄光」》。この曲を基に、創価大学パイオニア吹奏楽団の委嘱作品として生まれたのが、この《ピース、ピースと鳥たちは歌う》です。2018年に全日本吹奏楽コンクールで演奏されたことを皮切りに、多くのバンドで演奏されるようになりました。

冒頭、静寂の中、オーボエの独奏で歌われるのは、カタルーニャ民謡『鳥の歌』。カタルーニャ出身のチェロ奏者パブロ・カザルスが1971年、国際平和デーに国連本部での演奏会で演奏したことで世界的に有名になりました。演奏の際、「私の生まれ故郷カタルーニャの鳥はこう鳴くのです。peace, peace, peaceと」と語り、世界平和を訴えたことがこの曲のタイトルの由来になっており、全編にわたって繰り返し現れます。

オーボエに続きトロンボーンの独奏で『鳥の歌』が歌い継がれた後、様々な音の動きで、平和ではない世界での苦悩や叫びが混沌と渦巻く様子が表現されます。その中で何度も現れる『鳥の歌』は、「平和の世紀」へという祈りを表しているかのよう。そのエネルギーが高まり頂点に達したとき、「平和の世紀」を迎えたかのような輝かしい音楽が鳴り響きます。そして巨大なパイプオルガンが響いているかのように鳴り響くハ長調で、壮大なクライマックスを迎えます。

「21世紀を平和の世紀に」。これは伊藤先生と当団に共通する強い願いです。その思いが込められた《吹奏楽のための序曲「平和と栄光」》は、《ピース、ピースと鳥たちは歌う》へと姿を変え、日本各地、時には海を越えて飛び回り、多くの人に「平和」への思いを届けてきました。

伊藤先生とともに、当団の新たな可能性を模索し、創造していく中で演奏した昨年10月の全日本吹奏楽コンクール。全国大会金賞受賞ということを超えた、当団にとっても歴史に残る演奏になったと思います。

まさに、「この曲は再び創価グロリア吹奏楽団に帰ってきた。」

本日はトランペット、トロンボーンのバンダを加え、《平和と栄光》を彷彿とさせる特別ヴァージョンを披露させていただきます。伊藤先生と創価グロリア吹奏楽団の思いの重なった、「平和」を希求する祈りの音楽をお楽しみください。

（小池 伸明）

創価グロリア吹奏楽団

SOKA GLORIA WIND ORCHESTRA

指揮　伊藤　康英　　ゲスト出演 津軽三味線奏者　匹田　大智

代表
石川　芳明

楽団長
渡邊　浩由

事務局長
富田　光明

Stage Manager
山下　和幸

Staff
武　和哲
三木　博士
三島　英明
山根　大知
田中　勇太
鬼澤　信一
池田　優作
北村　信誠
繁名　瞬
田中　英一
門馬　利明
関口　翔太

Piccolo & Flute
和田　英之
菅原　丈生

Flute
住吉　正徳
大森　秀之

Oboe
富田　光明
山崎　湧貴
松本　寛人

Oboe & Piano
植田　豊

Fagotto
髙見　清正
橋詰　友希
田中　正喜 ※賛助

E♭Clarinet
明石　光司
金子　純樹

B♭Clarinet
弘埜　裕弘
設楽　正義
渡邉　誉也
青砥　由史
平野　采
三丈　翔太郎
檜森　太陽
原田　匠
野村　博正
藤井　尚也 ※賛助

Alto Clarinet
山上　勇樹

Bass Clarinet
田中　栄一
木島　雄大

Soprano Saxophone
戸田　光彦
中西　優

Alto Saxophone
鈴木　啓太
小林　大介
松葉　匡利
和泉　広一

Tenor Saxophone
中島　有希大
森　智臣

Baritone Saxophone
伊賀　清高
安達　秀夫

Trumpet
伊賀　誠
小山内　一哲
河原　正明
山本　泰寛
足立　優斗
北野　大志
鈴木　高志
池田　耕大
中根　俊弘
三井　一輝 ※賛助
依藤　麗 ※賛助
佐藤　正人 ※賛助
岡部　圭悟 ※賛助
甘野　伸明 ※賛助

Trombone
渡邊　浩由
竹内　博史
平井　隆之介
櫻井　優
小林　正広
松丸　勝利
荻野　昇 ※賛助
坂田　朋隆 ※賛助
藤原　和彦 ※賛助
白石　俊夫 ※賛助
吉野　拓未 ※賛助
勅使河原　幹也 ※賛助
鈴木　正樹 ※賛助

Horn
木下　遼
齊藤　博之
黒田　大翔
樋口　俊夫
高見　拓人
遠山　瀬南

Euphonium
神谷　正之
石井　信裕
平野　正明
平岡　勇一
伊藤　哲也

Tuba
矢寺　千彰
和内　貴嗣
岡田　恭輔
荻野　悠斗

Contrabass
小池　伸明
小林　稜 ※賛助

Percussion
川又　英樹
佐久間　大毅
玉置　真央
近　栄一
古川　仁
平岩　利明
安村　義人
吉田　秀明
菅野　大樹
菅野　大我

Celesta
西村　広幸

Harp
加藤　貴徳
三浦　麻葉 ※賛助

Webにてアンケートを実施しております。
右記の二次元コードを読み取ってご入力くださいますよう、ご協力をお願いします。

GLORIA
SOKA Gloria Wind Orchestra

オフィシャルホームページ　http://www.soka-gloria.com/
創価学会音楽隊Facebookページ　https://www.facebook.com/sokagakkai.ongakutai/